

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年11月30日(2006.11.30)

【公表番号】特表2006-504745(P2006-504745A)

【公表日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【年通号数】公開・登録公報2006-006

【出願番号】特願2004-543655(P2004-543655)

【国際特許分類】

A 6 1 K 31/427 (2006.01)  
A 6 1 K 31/513 (2006.01)  
A 6 1 K 31/706 (2006.01)  
A 6 1 K 31/7068 (2006.01)  
A 6 1 K 45/00 (2006.01)  
A 6 1 P 1/02 (2006.01)  
A 6 1 P 1/04 (2006.01)  
A 6 1 P 1/16 (2006.01)  
A 6 1 P 1/18 (2006.01)  
A 6 1 P 3/10 (2006.01)  
A 6 1 P 7/06 (2006.01)  
A 6 1 P 9/00 (2006.01)  
A 6 1 P 9/10 (2006.01)  
A 6 1 P 11/00 (2006.01)  
A 6 1 P 11/02 (2006.01)  
A 6 1 P 11/06 (2006.01)  
A 6 1 P 11/08 (2006.01)  
A 6 1 P 13/12 (2006.01)  
A 6 1 P 17/00 (2006.01)  
A 6 1 P 21/00 (2006.01)  
A 6 1 P 25/00 (2006.01)  
A 6 1 P 27/16 (2006.01)  
A 6 1 P 29/00 (2006.01)  
A 6 1 P 35/00 (2006.01)  
A 6 1 P 35/02 (2006.01)  
A 6 1 P 35/04 (2006.01)  
A 6 1 P 37/00 (2006.01)  
A 6 1 P 41/00 (2006.01)  
A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/427  
A 6 1 K 31/513  
A 6 1 K 31/706  
A 6 1 K 31/7068  
A 6 1 K 45/00  
A 6 1 P 1/02  
A 6 1 P 1/04  
A 6 1 P 1/16  
A 6 1 P 1/18  
A 6 1 P 3/10  
A 6 1 P 7/06

A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	9/10	
A 6 1 P	11/00	
A 6 1 P	11/02	
A 6 1 P	11/06	
A 6 1 P	11/08	
A 6 1 P	13/12	
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 P	21/00	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	27/16	
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	35/02	
A 6 1 P	35/04	
A 6 1 P	37/00	
A 6 1 P	41/00	
A 6 1 P	43/00	1 0 1
A 6 1 P	43/00	1 0 5
A 6 1 P	43/00	1 2 1

**【誤訳訂正書】****【提出日】**平成18年10月6日(2006.10.6)**【誤訳訂正1】****【訂正対象書類名】**明細書**【訂正対象項目名】**0 0 1 7**【訂正方法】**変更**【訂正の内容】****【0 0 1 7】****結果**

組み合わせ分析の各々からのデータを、 CALCUSYNソフトウェア(Biosoft, Cambridge, UK)を用いて分析し、それにより、試験した3つの細胞系の各々における各組み合わせについての組み合わせ指数(CI)を測定した。1未満のCI値は、2種の薬剤の相乗効果の存在を示し; 1より大きいCI値は、2種の薬剤間の拮抗作用を示し; 及び1であるCI値は、2種の薬物の付加的効果を示す。エポシロンDと5-FUとの組み合わせは、試験した全ての細胞系(大腸癌細胞系DLD-1、HCT15及びHCT116、及び乳癌細胞系AU565、MCF-7、MDA-MB-231、MX-1、T47D及びSKBr-3)について、及び試験した全ての治療スケジュールについて相乗効果を示すと測定された。この相乗効果は、エポシロンDと、5-フルオロウラシル及び5'-デオキシ-5-フルオロウリジンの双方との組み合わせにおいて観察された。5'-デオキシ-5-フルオロ-N-[(ペンチルオキシ)カルボニル]-シチジンは、代謝されて5'-デオキシ-5-フルオロウリジンとなり、それが、エポシロンDと相乗効果を示すことが証明されたので、従って、5'-デオキシ-5-フルオロ-N-[(ペンチルオキシ)カルボニル]-シチジンがまた、エポシロンDと相乗効果を示すと予期される。更に、予備実験では、エポシロンDが、いくつかの腫瘍細胞におけるチミジン・ホスホリラーゼの生成、5'-デオキシ-5-フルオロウリジンの5-フルオロウリジンの代謝についての酵素応答性をアップレギュレート(upregulate)し得ることが示された。